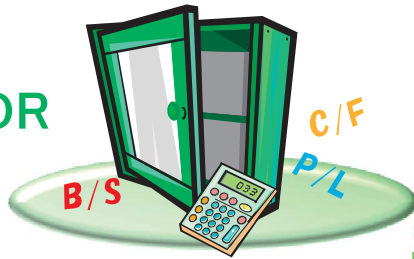


決算のDOOR

～数字が語る
東京大学



第5回 あなたの色に染まります

どこの世界でも「これがなければ会話が成り立たない」といった共通言語のようなものがありますが、会計の世界では、決算書に使う「勘定科目」がそれにあたります。「土地」「建物」「人件費」「消耗品費」などなど…どんな業種であれ、ほぼ同じ事柄やものを指すため、他の会社や法人の決算書と簡単に比較することができる大変便利な言葉です。ただ一つ、例外なのが「貯蔵品」です。

一般に「貯蔵品」は、道具や物品を販売用ではなく社内で使うため、未使用のまま一時的に蓄えておく時に使います。切手や事務用品、建設目的で購入した資材まで、企業によってその対象は十人十色、千差万別。単純には比較できません。それは、国立大学法人、独立行政法人も同様で、その様は実にバラエティに富んでいます。

例えば国立美術館は、配布用の展示会のカタログ（約1千万円）が該当しますが、国立印刷局では、お札の印刷に使う版面（約20億円）が該当します。均一で高品質なお札作りに欠かせない版面は手間とコストがかかるうえ、消耗も激しく、多量のストックが必要なのだそうです。

またJICA（国際協力機構）の「貯蔵品」は、被災国への緊急援助のための備蓄用物資（約5億円）。ドイツ、アメリカ、南アフリカ、シンガポール、成田空港と5か所に備蓄倉庫があり、テント、毛布、浄水器などニーズの高い8品目を災害現場に近いところから迅速に届けられる仕組みになっています。

一方、約474億円と各法人間でもずば抜けて規模の大きいJAXA（宇宙航空研究開発機構）の「貯蔵品」はもちろん人工衛星（使用予定期間が1年未満）とその打上げ用ロケット。最近では世界で初めて宇宙空間を太陽光だけで進むことに成功した宇宙ヨット「イカロス」、ISS（国際宇宙ステーション）に物資を運ぶ無人補給機「こうのとり2号機」が、それぞれ打ち上げまで「貯蔵品」として待機中だったそうです。



さあ、お待ちせいたしました！



小柴ホールにある
展示用増倍管（上）
とスーパーカミオ
カンデ内の増倍管

われらが東京大学の「貯蔵品」は、岐阜県飛騨市神岡鉱山の中にある光電子増倍管です。目に見えない弱い光を検出する高感度センサーですが、宇宙線からニュートリノを取り出すためには、更に性能の良い直径50センチの特注品が大量に必要です。複雑な製造工程、多額のコスト（@約30万円）がかかるため、いざという時に備え、日頃からストックは欠かせないのです。

いかがでした？人命救助のための物資から宇宙の神秘を探る道具まで、「貯蔵品」はそのオシゴトに左右されやすい実にフレキシブルな器なんですね。（青）

このコラムへのご意見、ご質問をどしどしお寄せ下さい。お待ちしております！

本部財務部決算課（内線22129）
E-mail: kessanka@ml.adm.u-tokyo.ac.jp

ASIAN DIVERSITY

No. 5

現代チベット研究が映し出す チベットの多様性

東京大学日本・アジアに関する教育研究ネットワーク(ASNET)では東洋文化研究所と共催で、毎週木曜日にセミナーを開催しております。今回は大川謙作氏(日本学術振興会、特別研究員PD)による、「現代チベット研究と代替民族誌の問題」(第8回東文研・ASNET共催セミナー、2010年7月8日開催)をご紹介します。

チベットが現代において、最もセンシティブな地域の一つであることは、ニュースや新聞を通じて皆様よく御存じのことと思います。チベット文化圏は複数の現代国家にまたがる広大な領域を形成しており、この多様性・複雑性が、チベットを研究対象とする学問領域にも大きな影響を及ぼしていることを窺わせるお話でした。

人類学研究とは、現地調査を通じて、その地域の多様性や普遍性を研究する学問研究です。中でも、チベットを研究対象とする人類学研究には、この地域の多様性に於いて、異なる複数の研究潮流が存在するそうです。セミナーでは「シェルパ中心主義的研究」と「ラサ中心主義的研究」という二つの潮流を取り上げられました。「シェルパ中心主義的研究」は、ネパール・ヒマラヤあるいはインド・ヒマラヤのチベット系住民の社会こそがチベット社会の典型であるとし、この地での現地調査をもとにチベット社会の特質を明らかにしようとする研究の一派です。他方「ラサ中心主義的研究」は、ラサと中央チベットをチベットの代表と見なしつつも、チベット本土での現地調査が困難であるため、再構成的民族誌(難民などへの聞き書きによる歴史の再構成)による研究を行う一派です。

チベットの複雑性は以上の通り、複数の研究潮流を生み出したのみならず、各潮流の相互対話を乏しいものとしてきました。チベットでの現地調査が困難であることを理由に、インドやネパール研究に関心を移した学者、またシェルパこそがチベットを代表するものであり、タライ・ラマやラサはむしろ、チベットの特殊な部分だとみなす学者など、同じチベットを研究対象としつつも、様々な研究スタイルやチベット文化圏のとらえ方も紹介されていました。大川さん御自身は、ラサの御研究を進めていらっしゃるそうです。

セミナーの詳細は下記のURLをご参照下さい。
<http://www.asnet.u-tokyo.ac.jp/node/6924>
ASNETホームページ
<http://www.asnet.u-tokyo.ac.jp/>



日本・アジアに関する教育研究ネットワーク
(ASNET) 安田佳代

★ASIAN DIVERSITY★

★ASIAN DIVERSITY★

★ASIAN DIVERSITY★